



避難訓練(不審者対応)を行いました

6月3日(木)校庭内に不審者が侵入したことを想定して、校舎内へ避難する訓練を実施しました。今回の目的は下記になります。

- 不審者侵入時における児童の安全確保に向けた確かな指示、迅速な対応
- 「自分の身は自分で守る」ことの実践訓練
- 不審者発見時の対応及び教室への避難方法、安全の確保の仕方の確認



子供たちは皆、放送や先生の指示を受け、速やかに教室へ避難することができました。南小学校では、学期ごとに年間3回の避難訓練を実施します。子供たちには自分の命は自分で守るという「危険回避能力」を身につけさせなければなりません。これは、日頃から子供たちが様々な体験や、小さな失敗を経験していくことで育つものと考えます。

身の回りにある危険を察知し回避することにより、子供自身で自らの命が守れるよう、ご家庭でもご指導いただければ幸いです。

6年生が社会科見学へ行ってきました

6月8日(火)に6年生は社会科見学を実施しました。学校から班ごとにオリエンテーリングをしながら県立歴史博物館、不動山古墳、観音山古墳を順に見学。貴重な展示物や古墳を見たり、浮世絵づくりを体験したりして歴史に触れてきました。これからの歴史学習にぜひ役立ててほしいですね。行き帰りの交通指導にご協力いただいた保護者の皆様も、どうもありがとうございました。



水泳の授業が始まりました

6月14日(月)にプール開きを行うとともに、各学年で水泳の授業が始まりました。今年度は、安全面に加え、新型コロナウイルス感染症の予防対策が必要です。着替えやシャワー、プール内では互いの間隔をとり、私語を控えながらしっかりと活動に取り組んでいます。水泳は体全体を使うので、筋力や体力をつけるためにとても良いスポーツだと言われています。制限の中ですが、自分なりの目標を持ち、それを達成することで自身の成長につなげてほしいと思います。



小学生の親子におすすめの勉強法 <前号の続き>

勉強法にはいろいろありますが、小学生に最適な勉強法はどんなものがあるのでしょうか。ここでは親から子へ勉強を教える方法とともに、小学生におすすめの勉強法をご紹介します。

7. 国語は、文章の読み取りがポイント

低学年の子供には、教科書の書き取りを、音読も有効です。高学年の子供には、読んだ本の要約をさせてみると力がついていきます。国語の読解問題が苦手な人は、本文の読み間違い、文章の主旨が読み取れていない、設問の読み取りが間違っているなどがミスのパターン。これらを丁寧に復習し、なぜ間違ったのかを反省するだけで必ず次につながります。親御さんが子供といっしょに勉強するときにはできることは、音読を聞いてあげたり、書き写しや要約が終わったあとに「どんなところが面白かった？」など子供に聞いてみることです。また、漢字がわからなければ「辞書を使って調べてみたら」などとサポートしてあげるとよいでしょう。

8. 算数は、子供の問題点を把握し、改善に導く

算数は、基本である計算問題を繰り返し練習することが大切です。算数を親子で勉強するときに、子供が理解していないところ（問題点）を見つけてあげるとよいでしょう。たとえば、計算であれば繰り上がり、繰り下がりができていない、九九が間違っているなどです。これらは基本的なことですが、そのことがわからない、または間違っただけのまま勉強を進めると、「できない、わからない、嫌い」という状況をつくってしまいます。子供が理解していない部分を親が把握し、わかるように教えてあげてください。文章問題の場合は、国語の読解問題と同じです。本文の誤読がないか、単純な計算間違いをしないかなど、低学年のうちには不正解になった原因を探り、その原因を伝えてあげてください。高学年になれば、「どこが違っていたの？」と原因を子供自ら究明させることが重要です。そのことだけでも、ぐんぐん算数の力がついていきます。



9. その他の教科の教え方

社会や理科は、子供が疑問をもったときや、「〇〇のことを教えて」と言われたときに成長のチャンスと捉えるようにしましょう。たとえば「星座の見方を教えて」と言ってきたら、子供向けに書かれた図鑑や専門の本、インターネットなどで調べるようにアシストします。そうすれば、星座の見方だけでなく、その周辺のことも興味をもったり、詳しくなり、もっとその教科を好きになる可能性大。ぜひ、調べ学習するように伝えてみてくださいね。

10. 幼少期の学習で大切なのは、勉強で自信をつけること

小さな子供のうちに自信をつけさせることが大切です。「百ます計算」などの「陰山メソッド」が多くの学校・家庭で成果をあげている陰山英男先生も、「子供は信じてやってこそ、あきらめを克服し、自分を高めるようになる」とおっしゃっています。昨今では、自己肯定感の低い子供が増加傾向にあり、そのことが学力アップの足を引っ張っている可能性があるのです。勉強によって自分に自信をつけることで自己肯定感を育み、さらに「勉強したい!」、「もっとやるぞ!」という好循環が生まれます。

11. 教科書を読む

陰山先生曰く、教科書を読ませるのが効果的だそうです。これは、新学期を迎えるときや新しい単元に入るときなどのタイミングで行うようにします。このとき内容はしっかり理解しなくても問題ありません。予習の段階で教科書を読んでおけば、授業内容を理解するのがスムーズになります。これは、小学校ではもちろん、中学や高校になってもできることです。しかも特別な教材は必要ありません。手軽にできるので、ぜひやってみてください。

12. 「読み書き計算」で基本的な学習能力を高める

陰山先生のお子さんは、小学生のころ、教科書などを声に出して読ませ、次に百ます計算などの計算練習をする。そして最後に宿題もやってしまう。時間があれば、あとは読書をするだけという学習を家庭でやっていたそうです。読み書き計算で、基礎学力を確かなものにするのが目的です。これらはすべての教科の礎となります。また、文章がスラスラ読めるようになった、計算が速く解けるようになったなど、成果がすぐに実感できるので、「自分はできるんだ!」という自信にもつながります。

13. 子供に合った方法を見つける

子供は一人一人違うので、その子に合う、実際に成果の出る方法を見つけることも必要です。その方法とは、教材かもしれないし、勉強の時間帯かもしれない。自分の子供に合った勉強法を探しましょう。もし、やってみた勉強法が合わなければ、その原因を分析して、ほかの方法を探して試してみましょう、ぜひいろいろな勉強法にチャレンジしてみてください。